

血液培養と尿培養から検出した CO<sub>2</sub> 要求性 *Escherichia coli* の 1 症例

◎古賀 万観子<sup>1)</sup>、寺山 陽史<sup>1)</sup>、三池 寿明<sup>1)</sup>、齋藤 美恵子<sup>1)</sup>  
公益社団法人 福岡医療団 千鳥橋病院<sup>1)</sup>

【はじめに】Small-colony variants (SCVs) とは抗菌薬や環境因子などの何らかの影響により、発育遅延、非典型的なコロニー形成を示す細菌株の総称である。SCVs はヘミンやチミジンなど栄養要求性を示すものもあり、CO<sub>2</sub> 要求性 *Escherichia coli* もこの変異株の一種である。今回、血液培養及び尿培養から CO<sub>2</sub> 要求性 *E. coli* を検出したため報告する。

【症例】70 代男性、両上肢のふるえあり救急要請され当院受診、本人の自覚はないが発熱もあった。血液検査より CRP 高値、CT 画像所見より腎盂腎炎を疑い入院となり、その際に血液培養 2 セットと尿培養を提出された。CTRX で治療開始し、血液培養陽性後は CMZ へ変更、入院してから 2 週間後に退院となった。

【微生物学的検査】入院時の血液培養 2 セット中 1 セットが陽性となりグラム染色を施行したところグラム陰性の球桿菌を認めた。好気培養したマッコンキー寒天培地から菌は発育せず、炭酸ガス培養をした血液寒天培地から菌の発育を認めたため ID テスト HN-20 ラピッド(日水製薬)を実施

したところ *Pasteurella canis* (同定確率 > 99%) が同定された。しかし、グラム染色の形態や発育したコロニーの性状とは異なっていたため外注先に質量分析装置での同定を依頼したところ *E. coli* が同定された。その後ライサス S4 (日水製薬) にて RCEB1 プレートを用いて 5%CO<sub>2</sub> 環境下で薬剤感受性試験を実施した。また、尿培養のグラム染色からは歪な形態を示すグラム陰性桿菌を認め、血液培養と同様の同定感受性結果を得た。

【まとめ】今回、血液培養と尿培養から CO<sub>2</sub> 要求性 *E. coli* を検出した症例を経験した。グラム染色において一般的な腸内細菌目細菌の形態を示しておらず菌種推定に迷いが生じた。当院では夜間に血液培養が陽性になった場合可能な限り当直者が培養を行うことになっているが、これにより 1 日早く培養が進みグラム染色の結果と合わせて必要な同定検査を迅速に実施できた。今後、非典型的な形態を示した場合は SCVs も考慮して検査を進めることが必要である。

連絡先 092-651-2502 (内線 6042)